

「いしかわの農業人材」育成プラン（仮称）中間取りまとめに対する
パブリックコメントの結果について

1 募集期間

平成 20 年 10 月 24 日（金）～平成 20 年 11 月 7 日（金） 15 日間

2 寄せられた意見

126 通、241 件

3 意見の概要と考え方について

〈農業人材の情報発信と県民運動の展開〉

No	意見の概要	左記に対する考え方	
1～ 2	CMをつくって食と農業の関係性をアピールする。 (同様の意見他 1 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の皆様が農業に関心を持ち理解を深めることができるよう、農業の魅力や大切さ、農業人材育成の必要性等についての情報発信に積極的に取り組んでいきたいと考えています。 ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。 	
3	農業っぽいラッピングバスを走らせる。		
4	キャラクターや歌やダンスを用いて農業に親しみを持って貰う。		
5	新聞等の地域コラムで農業に関する記事を毎日伝える。		
6	メディアにもっと地元の農業について取り上げてもらう。		
7～ 9	地域の有名な作物についてPRしたり、定期的に新聞や雑誌情報を載せてアピール。 (同様の意見他 2 件)		
10	県内産の農産物を売ったり、料理をふるまうようなイベント。毎週するというわけではなく、年に一回を行う。祭りのように開けば面白いと思う。種まきから口にするまでの農業体験。また、輸入した食料の危険性を学ぶことも大切。		
11	農家のこだわり、外国産も含めた他の農産物との違いをPRすべき。外国産との問題は値段なので、消費者の価値観を値段からずらせると良い。形の悪い売り物にならない野菜等を給食の材料として安く売る。		
12	保育所では、公民館さんや地域のお年寄りとの交流や連携を保ちながら、土作りや伝承食品作り（梅干・味噌作り・こんにやく作り・蒟蒻作り）など体験を通して手作りの良さを知らせている。保護者にも通信欄にのせ、自然の良さを理解して頂いているが、やはり簡単に食べられる冷凍品やできあいの品を使っているお母さん方が多い現状なので食の知識なども広めて欲しい。		<ul style="list-style-type: none"> ・子供に食べ物に関する説明ができるよう親に対する教育や情報発信に取り組んでいきたいと考えています。 ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。
13	学校教育だけでなく、家庭教育も大切ではないか。		

14	町別で作物大会を開催する。	<p>・地産地消の活動やロコミ・自慢などアナログ的な発信により、顔の見える農業、安全・安心な農業や農村の良さの理解促進を図ることが必要であり、</p> <p>① 顔の見える販売、農業出前講座、消費者との交流、農作業体験の場の提供</p> <p>② 農家自身が県民に訴える自慢大会や、農業・農村の良さを伝える表彰の実施</p> <p>③ 学校給食での顔の見える県産食材の利用拡大</p> <p>等に取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
15	(スーパーなど) 野菜売り場に作業している様子をTVで流したり使用した農薬(一般の使用量と比べて)を公開する。	
16	県内産や国内産の農産物に生産者の顔写真を付ける。野菜を売る場所にその野菜を使ったレシピをおく。	
17	県内産の農産物には県内産であることをわかりやすくする。生産場所の地名をいれたり、ユニークな製品名にするなどしてアピールする。	
18 ～ 22	商品に地域や畑の風景写真、生産者の顔写真を載せる。〇〇市〇〇町まで生産場所を示す。具体的に示すことで身近に感じさせる。 (同様の意見他4件)	
23 ～ 24	スーパーの野菜売り場で「地元の味」のようなフレーズで生産者のPRしたいところや生産過程などを表示する。 (同様の意見他1件)	
25	農産物にタグをつけてインターネットで調べると生産者の情報がわかるようにする。	
26	ふるさとCMのように農業CM大賞をつくって農家の人達に自分の野菜をアピールしてもらう。	
27	農家の人達による試食会のようなイベント。遠足のような行事で農業体験。	
28	農業が安全・安心でどのようにしているかを消費者に伝えるべき。そうすれば高く買う必要性を感じる。	
29	テレビ、ラジオを利用して農家の人に出演してもらい、農業をアピールする。	
30	農家の方自らセミナーなど開き、野菜の栽培方法について知ってもらう。スーパーで生産者自ら店頭販売する。農産物の包装に生産者の写真や名前を載せる。農家の人が野菜の成長日記のブログをつくる。農家の人達が野菜の栽培など自分達の農業について写真を撮り展示会をする。	
31	ネット、新聞を利用して農業の良さを理解してもらう。	<p>・農業者の取り組み意識の向上、農業者の主体的な取り組みの促進に努めるとともに、農業者相互の情報交換や連携により、効果的な情報発信を推進していきたいと考えています。</p> <p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
32	農家と消費者をつなぐホームページを作り、掲示板をもうけ、コミュニケーションの場をつくる。	
		<p>・インターネットの利用環境が発達した現代社会にあっては、若者などに効果的に情報を伝えるためには、電子媒体の活用が不可欠です。農業研修生自身のブログによる農業体験の発信など効果的な活用を進めていきます。</p>

33	民間企業の中には地元食材を活用しようという動きがあるが、市町行政もそれに追随してもらわないとダメ。 地元でこういう旬のものがあると行政やJAが働きかけることが必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な方々に効果的に情報を伝えるため、地域全体、関係団体等が農業者と一体となって、インパクトのある情報発信を行うこととしています。 ・地産地消、就農等の情報については、組織的に情報を提供することなどにより、効果的な情報発信に努めます。 ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。 <ul style="list-style-type: none"> ・県、市町、農業者、農業団体はもちろんのこと、関係団体など県全体が一体となって農業人材の育成に取り組んでいきたいと考えています。そうすることで、農業者や県民の意識が変わっていきます。そういう新しい考え方を共有していくため、「食への関心」を「農業を身近に感じる」へ、さらに「協働」へ進化させるような県民運動を展開していきたいと考えており、 ① 食育、地産地消等の取り組みから、県民一人ひとりが農業を身近に感じ、県民も農業を支え、農業者も食を守るという目に見える協働活動へ ② 農業の大切さや厳しさを知るための、出前講座や消費者と生産者の交流会の開催等を積極的に推進していきたいと考えています。 <ul style="list-style-type: none"> ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。
34	県や国に頼るには良いことではないが、県単位で取り組むことは必須。自分達の地域の作物について誇り、愛情を持たなければいけない。地域が一丸となって農業をしている感覚が必要。	
35	学校や保育園の近くで送り迎えの親を対象に野菜販売をする。	
36 ～ 45	農家の方が売る直売所をつくる。スーパーに地元の作物を販売するなど地産地消を推進する。 (同様の意見他9件)	
46	中国産の有機物混入事件等で食の安全に気を付けるようになってきているため、生産者が販売する場を広げることで、安心できる。	
47	直売所だと、農家の方も自分で値段が決められるから赤字農業にならず、直接お客さんと関わり、商品が売れることにより喜びが得られる。野菜の直売所によって消費者が生産者に会うことで農業に興味を持つようになるのではないかな。	
48	<ul style="list-style-type: none"> ・空港で地物市を毎日（日曜のみ）など、午前便の時間帯にやってみようか。農家の方々の行き来や荷物運びなど、販売力促進のための補助金を検討する。 ・地産地消センターみたいな問い合わせ先をつくる。消費者や旅行者は今日どこに行ったら買えるのかという問い合わせ先、売り手（スーパーや販売店）は明日、こういうものがほしいという注文先。農家はこういう物ありますというPR先、FAXのやりとりでいい。 	
49	フリーマーケットのような感じで、育てた本人が売る。	

50 ～ 61	大変さも楽しさも教えることが出来る農業体験は効果的だと思う。私も農業体験をやったことがあります、その時はとても楽しく感じた。 (同様の意見他 1 1 件)	
62 ～ 64	農業体験や野菜直売などのイベントを開く。庭やベランダでも育てられる作物の栽培を推進する。 (同様の意見他 2 件)	
65	実家が農家とか親戚が農業をやっていないと農業は別の世界だと考える人が多いと思う。野菜の直売所をつくり、買いにくるお客に農業を手伝ってもらうぐらいの感覚で体験してもらえれば良い。	
66	農作業を体験させるのにお金を取るというと意外と来る人がいる(特に高校生)。	
67	現在、フリーターと呼ばれる若者達が、農業に目を向け、農業を体験できるようなシステムができれば嬉しい。デスクワークや接客に適さず、専門的な技術もない若者でも自然と共に歩む農業に興味を持つ人達がいるかもしれない。	
68	昨今、地産地消、地消地産、食に安全・安心が声高く叫ばれているが、農家と市民、行政、農協、生協と一体になって真剣に取り組んでいる地域が成功している。全国民に金をばらまくのではなく、真面目に真剣に農業をしようとする人に土地と資金を与え、指導していく国家プロジェクトを立ち上げることが大事。土地にあった農業を考え、若い人達に農業体験をさせ、収穫の楽しさ、辛さ、喜びを肌で感じさせ明日の未来を切り開かせる力をつけさす事が大事。	
69 ～ 70	「農業の日」という日をつくり、学校、会社等で農業体験をする。 (同様の意見他 1 件)	
71	県立大の響縁祭など農業が関われそうな機会に場を借り出店するなど広い年代に触れられるようにする。社会見学や職場体験で農業に触れる機会をつくる。	
72 ～ 73	野菜の収穫の時期に泊ってもらい、収穫したものを食べる。スーパーで生産者が直接売る。自分の手でつくったものを食べるすばらしさを学ぶ農業体験を行う。 (同様の意見他 1 件)	

・県、市町、農業者、農業団体はもちろんのこと、関係団体など県全体が一体となって農業人材の育成に取り組んでいきたいと考えています。そうすることで、農業者や県民の意識が変わっていきます。そういう新しい考え方を共有していくため、「食への関心」を「農業を身近に感じる」へ、さらに「協働」へ進化させるような県民運動を展開していきたいと考えており、

① 食育、地産地消等の取り組みから、県民一人ひとりが農業を身近に感じ、県民も農業を支え、農業者も食を守るという目に見える協働活動へ

② 農作物を作る喜び・感動を感じるため、米づくり等の様々な農作業体験の場の提供

等を積極的に推進していきたいと考えています。

・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。

74	地区単位で農地をつくりその地区の人達に世話をしてもらおう。費用は市町村が払い、作った物は世話をした人達で消費。	<p>・県、市町、農業者、農業団体はもちろんのこと、関係団体など県全体が一体となって農業人材の育成に取り組んでいきたいと考えています。そうすることで、農業者や県民の意識が変わっていきます。そういう新しい考え方を共有していくため、「食への関心」を「農業を身近に感じる」へ、さらに「協働」へ進化させるような県民運動を展開していきたいと考えており、農作物を作る喜び・感動を感じるため、米づくり等の様々な農作業体験の場の提供等を積極的に推進していきたいと考えています。</p> <p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
75	小さいスペースでもいいから多くの人が農業を始める。	
76	作物を植えてから収穫するまでの長期間の(誰でも参加できる)スクールをつくる。地元の人から教えてもらえれば地元の野菜も信頼してくれるようになるはず。	
77 ～ 78	野菜づくりをしたいと思う人はたくさんいると思うので、県が土地を集め、県民に貸し、野菜づくりを推進。 (同様の意見他1件)	
79 ～ 80	農地の一部を貸し出しする。完全に貸すのではなく植え付け収穫など一部だけの体験形式でも良いと思う。 (同様の意見他1件)	
81	スローフード、地産地消の大切さを感じてもらうために、全て地元の畑や漁港などを自らまわって(スーパーは利用しない)調達した材料を使って、一食分の食事をつくるイベントをつくる。	
82	スーパーなどで特産品を試食として食べてもらい需要を増やせばいいと思う。	
83 ～ 85	ファーストフード店や定食屋で地域の野菜を利用する。店内に生産者の情報を貼る。 (同様の意見他2件)	
86	農業フェアを収穫時期に開催し農業者の畑ごとに食べ比べ販売する。生産者と消費者が直接つながる機会を増やす。	
87	学校給食における地場農産物の利用率をあげることが課題となっている。しかし、現状では限界があることも事実で生産、流通ともこのことを視野において取り組むシステムを検討して欲しい。	
88	米粉を学校給食に使う案もあるが余り強く言いすぎると業者からの反発がある。	<p>・県、市町、農業者、農業団体はもちろんのこと、関係団体など県全体が一体となって農業人材の育成に取り組んでいきたいと考えています。そうすることで、農業者や県民の意識が変わっていきます。そういう新しい考え方を共有していくため、「食への関心」を「農業を身近に感じる」へ、さらに「協働」へ進化させるような県民運動を展開していきたいと考えており、</p> <p>① 食育、地産地消等の取り組みから、県民一人ひとりが農業を身近に感じ、県民も農業を支え、農業者も食を守るという目に見える協働活動へ</p> <p>② 農業の大切さや厳しさを知るための、出前講座や消費者と生産者の交流会の開催等を積極的に推進していきたいと考えています。</p> <p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
89	食品流通業者や食品加工業、企業の社員食堂などについては、「地産地消」の取り組みができつつある。更に、「地産地消」を発展させていくにあたり、外食産業や学校給食についても、食材の何割かを「地産地消」に協力してもらおう呼びかけが必要である。	

90 ～ 91	地元の農作物を買うと、特典がつくようにする（ポイントカード、粗品など）と消費者も買いやすくなると思う。 （同様の意見他1件）	<p>・県、市町、農業者、農業団体はもちろんのこと、関係団体など県全体が一体となって農業人材の育成に取り組んでいきたいと考えています。そうすることで、農業者や県民の意識が変わっていきます。そういう新しい考え方を共有していくため、「食への関心」を「農業を身近に感じる」へ、さらに「協働」へ進化させるような県民運動を展開していきたいと考えており、食育、地産地消等の取り組みから、県民一人ひとりが農業を身近に感じ、県民も農業を支え、農業者も食を守るという目に見える協働活動への展開を積極的に推進していきたいと考えています。</p> <p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
92	消費者が出来ることを考える機会を与え、実行する。	
93	地域の住民の方が寄り添って、支え合いながら農業など緑豊かな町が残るように考えていきたい。	
94	生産者の顔が見える安全・安心な農産物を求める消費者が多いことは、本校の販売実習施設でのアンケート調査やJA、農業法人の直売所での客数を見てもわかるが、一方で、食材に対し全く無関心な人も多い。この2極化に対する対策も必要。	
95 ～ 102	農家を訪問して農業について調査する。理科系の授業や講義で農作物を農家の人に教えてもらってつくる。 （同様の意見他7件）	<p>・子供の教育時代での取り組みが重要であり、特に、小学校だけでなく、中学・高校まで、教育と連携した取り組みが必要と認識しています。このため、農業の大切さを知ってもらうための農作業体験や農業出前講座の実施などを進めていきます。</p> <p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
103	授業の話だけではわからないと思うので体験することが必要。学校に地域の人が自由に出入りできる（図書館や情報センター、サロンなどの施設をつくる）ような、地域に開かれた学校づくりを進めることが必要だと思います。学校の中と外で農業とふれ合う機会を設ける。学校もしくは学級毎に専属の農家の人がいて自分達の畑、田んぼとして世話をすることも面白いかも知れません。	
104 ～ 108	農家の人に農業の大切さや農業の必要不可欠かということ語ってもらう。農業体験をする。 （同様の意見他4件）	
109	小学校：農業について詳しく学ぶ。小さい鉢植えてもいいので何か野菜を育てる。中・高：授業で農家の人から話を聞く。農家に泊まり、農業の楽しさを学ぶ。大学：日本の食糧自給率など日本の状況を学び、農業の大切さを学ぶ。	

110 ～ 123	週一で農業の話をする。学校に農地をつくり、生徒が世話をする。収穫した物は昼食に食べる。進路を考える中学校、高校で積極的に農業に触れる機会をつくると良い。 (同様の意見他 1 3 件)	
124 ～ 129	週に何時間か行う「選択」の授業に農業を加える。中学校の職業体験に取り入れるたらどうかと思います。 (同様の意見他 5 件)	
130 ～ 144	小、中学校については稲作体験、農業についてわかりやすく説明(絵やテロップを使って)。一度体験してみると多少は農業を身近に感じてくれると思う。授業の一環で農業について調べ学習するようなプログラムをつくる。 (同様の意見他 1 4 件)	
145 ～ 148	小、中学校については見学に行く。給食に地元の野菜を使う。中、高校についてはあまり農業にふれることが少なかったのもっと接する機会を設ければ良いと思う。 (同様の意見他 3 件)	
149 ～ 160	農業体験を授業に取り入れ、農業の大変さ、収穫や実際に味わった時の楽しさを学ばせる。農業の現実の収入を教え、農家の生活の厳しさを教える。農作物が消費者まで届くルートをきちんと教える。 (同様の意見他 1 1 件)	
161 ～ 164	夏休みを利用して農業体験を行う。定期的に農業体験を行えば良いと思う。授業に農業関係のを取り入れるべき。もっと農業の状況や利点を教えるべき。小さい頃から農業にふれ合う環境をつくれば農業に関心を持つ若者が育つと思う。 (同様の意見他 3 件)	
165 ～ 167	授業で農業を行う。穀物や野菜を全く使わないなど実際に給食を作って食べてみる。 (同様の意見他 2 件)	
168	野菜をつくる部活をつくる。野菜や米などのコンテストを行う。	
169	「農のありがたみを知る人を増やす」ということなら総合学習としてカリキュラムに取り組む。「農に従事する人を増やす」なら自主性を尊重した活動がよい。 ① クラス、グループ単位で何を育てるか決めさせる。 ② 畑などの準備は学校がする。 ③ 協力してくれる農家の人を募集する。 ④ 植える～収穫まで全て生徒に任せる。	

・子供の教育時代での取り組みが重要であり、特に、小学校だけでなく、中学・高校まで、教育と連携した取り組みが必要と認識しています。このため、

- ① 農業の大切さを知ってもらうための農作業体験や農業出前講座の実施
- ② 職業としての農業を知ってもらうための、農業インターンシップの実施
- ③ 子供を教育する教師の農業への理解を深めるための研修会等の実施
- ④ 地場産物を活用した学校給食の推進
- ⑤ 農業人材育成を学ぶための機会の提供と教本等の作成
- ⑥ 小学生等の農山漁村の宿泊体験活動の推進(子ども農山漁村交流プロジェクト)

などの取り組みを進めていきます。

・職業としての農業を選択してもらうための情報提供も大切であり、大学、高校、ハローワーク等とも連携して就農情報の提供等に努めていきたいと考えています。

170	小学校の植物観察の一つに農作物をつくる。短期間の観察ではなく3年くらいの長期間で行う。授業で作った作物と農家の人がつくった売り物の作物とを比較し、農家の人のすごさを教える。	(前ページの続き)
171	県は、戦略・政策という制度的枠組みをどうするかと言うことが特に重要で、それをプランの中で重点的に考えることが必要。枠組みの一例は、幼稚園から大学院まで、農業の意義の教育で、それは非常に重要。子供達を農林漁業や農山漁村に触れさせることも非常に重要。給食政策や食育も重要。長期的効果がある。	
172	給食で食べている農産物がどのように作られたのかを学ぶ。	
173	農業が滞ると自分達にどのような影響があるかを教える。	
174	授業で、日本と海外の農業を比較をして、日本の農業の良いところを見つける。スーパーに「全て国産の材料を使用しています」とい加工品をみかけます。そのような加工食品が増えればよいと思います。	
175	農業が儲かる職業だと教える。その前提として農業が実際にもうかる職業でなければならぬ。キューバのように会社員より農家の方が儲かっている状態ならば自然と若者の農業への関心は高まると思う。	
176	乳幼児期の自然体験の大切さを保護者に伝えて、これからの子供の発達や情緒の安定につながる事を大事にしていきたい。食育→地産地消となるように保育園の給食に対しても取り入れていけるようなシステム作りを考えていかなければならない。	
177	小学校で行われている米作りは大変効果があると思うのもっと小学校で米、野菜作り。地域の人との交流で農業の文化や歴史について知る。	
178	農業の応援活動を必修科目にする。	
179	高校や大学では、職業体験の一つのような形で体験することが大切。	
180	高齢化社会の中で(前期)高齢者の社会参加を考えると農業は重要な産業。社会全体として意識として、農業者への尊敬を持たせる教育が必要。	

〈関係機関が連携した総合的・体系的支援〉

181	農業は、もっと消費者の意見を良く聞くべきであり、消費者にもっと情報を与えるべきであり、そのためには、あらゆる機関が参加し、話しやすい民間の組織が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業人材の育成に関する自発的・自立的な個々の取り組みを有機的につなぎ合わせ県民運動に発展させるため、県段階、地域段階に農業者、消費者、商工業者、観光業者、教育者、環境等関係者による推進組織を設置し、農業人材育成に関する情報共有や具体的な取り組みを進めるとともに、優れた人材育成の取り組みに対する顕彰や啓発セミナーの開催等により情報発信を推進することとしています。 ・県民運動には農業者、流通販売業者、県民等様々な分野の人の農業人材としての自発的な参加・取り組みが重要であり、それにより農業人材の裾野の拡大を図ります。
182	推進にあたっては、いしかわ環境パートナーシップ県民会議のように民間も入った緩やかな連携組織を作るのがよいのではないか。	
183	農業に成功した農業者の意見も必要ですが土地持ち非農家の意見も必要でないか。	
184	農業者の意見をもっと取り入れるべきであり、そのためには、農業施策を決める場に若い農家を参加させるべき。	
185	総合学習の時間が減り、学校で農業のみならず地域の現状を知ることが困難な今、地域ボランティア団体などが様々な組織と連携して的確なニーズ・現状を把握した体験活動を行うことにより、お互いの手が届きにくい部分を補い合い石川県の将来を担う子供たちの健全育成に繋げていきたい。育成プランの今後の経過等を知らせてもらい、意見交換機会の継続、人的ネットワークの形成を強化して欲しい。	
186	農家、商工業者、病院の連携した取り組みが重要。各関係者が集まる会議を地域ごとに作るのがよい。地域にオピニオンリーダーを集める場があると良い。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者の自立的な取り組みが重要であり、県レベル、地域レベル、また産地レベル、作物レベル、さらには親、後継者、新規参入者等のグループ活動や他産業、消費者等との交流の場づくりを推進します。 ・新しい取り組みである農商工連携等の促進や産地消の一層の推進に向け、情報提供や知識・ノウハウを習得するセミナー等の開催を推進します。
187	アグリ塾や市の農業大学生には、その後ポツンと放り出されたような環境になっている人がいるのでは？営農指導や出荷規格を共有できるグループ作りが今後必要。	
188	農業と商工業の連携が大切。これからは地域の特産品づくりの取り組みが重要になってくる。どんどん進めていって欲しい。	
189	誰にでもわかりやすいマニュアルづくりは必要と思われます。農業行政に携わる者でも制度等の理解が難しい。	
190	大筋の方向性としては大変良い。しかし、15のパターン分けについてはいささか異論がある。弊社は⑥に属するが、同じく⑥に属する観光業者、種苗等と同じくマニュアルで対応できるわけではないと感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業人材が自発的・自立的に取り組めるよう、農業人材の視点に立って、「知りたいこと」、「伝えておくべきこと」が分かりやすい、きめ細かな内容のマニュアルを作成します。 ・農業人材の自発的・自立的な取り組みは、その取り組みの展開状況、達成段階、その人材のタイプに属する人々の意識の状況等により様々なので、その農業人材のタイプごとのマニュアル化を検討し、できるところから着手し、順次作成します。 ・タイプはあくまでも代表的なモデルとして示したものであり、今後弾力的に考えていきます。

191	<p>他の枠組みは、農業経営を始めるときの農地制度の問題、資金融資制度の問題、農地・資金・固定資本などの斡旋の制度や農業機械中古市場の機能化、集落へ融和するための教育、有機農産物や直売など販売戦略の教育、農業経営を始めるに当たってのリスク軽減制度（農業共済以外の保険）、クラインガルテン、市民農園や生活農業などの育成枠組み、大規模経営の農業・関連労働者受け入れ制度の充実、石川の集落営農を進めて行くサポート制度など色々考えられる。結局、農業人材を育てるための、少数の重要な政策枠組みと手段を特定し、それを県、市町、農業団体などが、設定し作動させることが重要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの実効性を高めるため、農業に関係する機関・団体が、農業人材の育成に向けたそれぞれの役割と責務を明確化し、かつお互いの連携を深めた取り組みを進めます。 ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。
192	<p>加工を行うための現在ある施設を借りたいといっても行政は縦割りで貸してもらえない。例えば各地区の給食用の施設で商品開発をできるようにして欲しい。色々な施設があるが使わせてもらえないのが現状であり、他の関係の施設も使えるようにして欲しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・存在が誰にも分かりやすく、気軽に相談できる、農業に関する総合的な窓口を設置し、全国に向けて情報を発信することとしています。
193	<p>加工や包装など付加価値を付けるための知恵を買うとしても、どこに相談すればいいかわからないので、商品化のための相談窓口を開設して、そういう場合はそこへ行けといってもらえるようにしてもらえばよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農業人材育成やそのマッチングに関するものに重点をおきつつも、農業技術や加工、販売のノウハウ、商工業との連携や農作業体験など、農業者育成から食育活動にいたる初期的な幅広い相談対応や、次の段階につなぐための機関の照会などに柔軟で迅速かつ機動的に行うための体制を整備していきたいと考えています。
194	<p>何かを開発しようとした時に気安く相談にいける場所があるといい。どこに相談にいけばいいのかわからない。各情報ごとにどこに行けばいいのかを教えるシステムが欲しい。家庭の主婦の中にも特技をもっている人も多い。それを商品化する時にどうすればいいのかを教えてくれる所があれば助かる。 今までは対面販売でOKだったがこれから大きくする時には、ラッピングや付加価値をつける方法を教えてくれる場所があればいい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合窓口については、幅広い相談対応が求められることから、農業人材育成に関係する各関係機関とネットワークを形成するとともにバックアップ体制を確立し、その機関への紹介や照会ができる体制を整備したいと考えています。

195	物を作ることばかりでなく作った物をどう販売していくかに係わる支援が必要。例えば、能登方面から中央卸売市場（手前みそですが）までの集荷便のルートを作り、その運搬費用の一部を助成する。又は、段ボール箱や通い容器等の資材に支援をするといった側面からのフォローが有効。	
196	個人経営では限度があるが、土建業や他の企業などが大々的に経営してくれれば職不足も解消されたり、施設などへも十分に配給され保育所の子供達へも安全な食品を与えられるのではないか。	
197	兼業農家は専業農家の6倍位あり兼業農家の位置付けは大きい。また、農業は工業製品とは異なり、生産のスペンが長く、技術の習得あるいはその環境に慣れるといったことにも時間がかかるので、最も担い手になりやすいのは農家の子弟である。	
198	高齢者の農家に農業経験のない人が手伝いに行く。（県や市町村が仲介する）自分の手で農業に触れることで農業を身近に感じるができる。	
199	近年、無償のボランティア活動が盛んにもはやされていることが大問題。ボランティア作業は失業者や年金生活者の希少な出来る作業を奪っている。そのため、貴重な人間資源である人間力も発揮できず、資源の無駄づかい。	
200 ～ 201	定年後に農家になるつもりはないが、「田舎ぐらし」をやってみたい。子供の頃に体験していた本物をつくりたい。このような「田舎塾」を通じて、農業に興味をもってもらう活動をやらせようと思底辺が広がる。今後はターゲットをリタイヤ組にして育ててみればどうか。 (同様の意見他1件)	
202	個人で農業を進めるには今後問題が多すぎる。法人化、集落営農をより一層取り組んでいかなければならない。	
203	知識人は農業を守らなくてはならないという意見の人が多い。	
204	色んな情報があっても補助金を申請するのにマニュアル通りに書類を書けない。手続き用の書類を書く技術を農家は知らない。その知識を商業というレベルで教えて欲しい。息子は農業者だが、農業ではなく経営者として商業の勉強をさせることが必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業に参画したい、関わりを持ちたいと考えている様々な方々に対して、きっかけづくりから定着までの一貫した相談・指導を行うとともに、農業分野とのマッチングを積極的に行っていきたいと考えています。 ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。 ・様々な補助事業や各種資格等の申請が分かりにくいことから、その助言を行うことができるよう配慮します。 ・難しく専門的な事業制度を分かりやすく説明すること（翻訳）や煩雑な補助事業等申請の代行など、指導面で専門的な能力が必要な場合には、外部の民間・公的機関の活用を検討していきます。

205	今後、農業行政と教育行政をつなぐ意味で、農業高校の果たす役割が更に大きいと考えている。農業高校と県立農業短大教員との交流・連携を復活させ、高大連携の協力体制を構築し、本県の農業教員の資質向上を図っていく必要がある。県レベルで農業教員に対する研修を行う必要がある。農業に関する若くて優秀な人材を高校現場へ送り込み、農業高校を活性化させることが急務。	
206 ～ 207	農業人材育成の問題は我々生産者団体も巻き込んで欲しい。そうすれば我々もどう対応できるか考えたい。そして新しいアイデアも出てくる。そんな話のキャッチボールが今後でもできればよい。 (同様の意見他 1 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者や企業、県民など農業に入る側と受け入れる側である農業者や集落等とのマッチングをきめ細かに行いたいと考えています。 ・マッチングを円滑に行うため、コーディネーターを設置し、関係機関・団体等の調整を行うとともに、就農希望者については就農を決意した段階から営農定着までを一貫して相談・指導するチューターや、栽培技術から食育活動までの幅広い要請に対応できる多様なアドバイザー等を配置することにより、農業人材の取り組みを促進していきたいと考えています。 ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。
208	農家と商工業者の出会いとマッチングが大事であり、そのための情報共有が大切である。お互いが情報交換する場を作るのがよい。	
209 ～ 210	商工業者に対して農家が相対してやる時には個人では弱いので、県等の公的機関が間に入るべきである。 (同様の意見他 1 件)	
211 ～ 212	石川県の農業をみると、50の農業法人と残りは零細企業である。そういう農業者と企業のマッチングはむずかしい。本来はJAがすべきであるが今はそれが出来ない。JAに変わるものの考えを入れないと発展しない。 (同様の意見他 1 件)	
213	基本的な機械作業などを応援してくれる仕組みがあると土地利用型の経営などにとってはありがたい。	
214	農作業体験の受け入れは大学生の夏休みをねらったらどうか。大学が休みの8～9月は農家が忙しい時期である。	
215	企業の中の育成にはチューターがいるが、農業の場合は余力を持って育てる余裕がない。	
216	農業従事者になりたい若者を支援する進路相談所は学校や農家の方々のみではなく様々な知識を持った人々で構成される方がよいかと思えます。	
217	農業者を県民全体で応援することは大切なことであり、市農業政策の市民理解につながってくるものである。	

218	・就農に関する地域や住居、農地等の情報が不足しているので希望する人に紹介、斡旋ができる体制づくりが必要かと思いません。	<ul style="list-style-type: none"> ・農地、住居をはじめとした様々な情報を県・地域レベルでデータベース化するとともに、相談等に対し総合的にかつ迅速に対応できるよう、関係機関・団体等との連携体制を構築します。 ・農業者の高齢化・減少の中で、補完作業を行うための団体・組織の形成やアルバイト等を確保し、それらを必要とする農業者等へ紹介、斡旋する仕組みを検討します。
219 ～ 210	新たな農業参入に対して、土地問題をどうするのか。土地なくして、農業の話に入れないのでは。牧場を辞められた方の土地等、県、農協が確保しておかなくてはいけないのでは。 (同様の意見他 1 件)	
221	ファンドから研修の金を出すのも必要	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省、経済産業省、研究機関等国の補助制度やプロジェクト資金のほか、いしかわ産業化資源活用推進ファンド、民間企業による資金・ファンド、寄付等の仕組みが多くあることから、それらを有効に活用するため、まず調査しその積極的な活用を行うための手法を検討します。 ・またこうした資金を積極的に獲得し、農業人材育成の各取り組みの充実・展開を図るとともに、農業人材が獲得しやすくするための手続き等の助言や指導等を行います。また、こうした資金の活用にあたっては、費用対効果も考慮して適切に執行します。 ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。
222	農業人材の範囲を大きくしたことはわかった。とりあえず、農業者を重点的にすることもわかった。新規参入者は始める時に負担が大きい。	
223	裸一貫で入る人も農業人材に位置づければよい。応援する人がお金を募って合資会社にし、金を新規参入者に貸せないのか。そういう仕組みが出来れば、プレゼンをしていい人に金を出すようにすればいい。ただし、後で金はちゃんと返してもらわなければならない。	
224	経産省は色んなお金がある。農水省以外の省庁からも使えるものは取ってくるべき。	
225	“育成のための支援”については新規に就農しようとする人材が農業を持続していける部分で対して、厚く助成していくべき。	
226	・予算（補助金）をつけるのは素晴らしいと思うが、どのように使われるのかも公開し、どのように使われたかも年に一度意見交換会を開けば次の年度はよりよい使われ方になる。補助金目当ての団体もいるかもしれない。	
227	15パターンはすでに実践している人もいる。農家が困惑しているのは経営難。従業員を募集しても給料が払えるかどうか不安。そのためには、特産品、売れる物を開発していかないとダメであり、そういう情報が欲しいし、それを教育して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのアグリ塾を発展的に見直し、プロ農業者から農業の応援団までの幅広い人材育成を行う「いしかわ耕稼塾」を開設することとしています。 ・この中で、プロ農業者の育成という面では、経営・販売力を習得するための研修や異業種との交流等を行っていきたいと考えています。
228	・人材（農業）を育てるプランに対して農業力+PR力（販売力）が求められる。	

229	本気で農業従事者を増加させようとするなら第三者の世界で表面上の対策だけでは足りないのは当然のこと。表面上の「農業」だけの切り口でなく、それ以前に郷土愛を育てる精神的な教育が10～20年といったスパンでの考えで進めて欲しい。	
230	<p>活力のある農業を考えて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかい人が将来を望める農業 ・石川県らしいブランド作り ・第三者の参入しやすい農業 ・“食の大国石川”とアピールしているが食材はどうなのか。 ・10年後20年後には石川の農産物も輸出も目指して考えて欲しい。 ・輸入先が農林物資の輸出禁止をした場合の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の優先順位を検討し、まずは具体的に行動し弾力的に考える中で、県民、関係者の考え方の意識の醸成を図るとともに、考え行動する協働手法を検討していきたいと考えています。
231	問題点の捉え方、今後の計画は素晴らしいと思いますが、具体的に進めるには大変だと思います。計画に沿って事業が進んでいき、農業に夢が持てるような石川県の農政になっていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・本プランで、明らかになった課題や政策等については国へ提案します。
232	いしかわの農業の発展を目指して、県民全体に「農業人材」としての役割を果たしてもらおうという発想はすばらしい。また、「いしかわの農業人材」を4つの区分とし、更に細分化し15のパターンとして、それぞれの立場で「いしかわの農業」を応援・発展させていく「石川の県民運動」の仕組み作りも良い。今後、15のパターンの関係者や関係機関をいかに組織化し、実際の活動につなげていくかが課題である。	<ul style="list-style-type: none"> ・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。
233	構想はいいが、大きい取り組みなので簡単にはできないのではないかと。やれるところから取り組むことが必要。当事者である農家への負担が心配。	

〈その他〉

234	<p>今日までの農業政策は大規模な専業農家等の育成に加担した促進であり、それ以外のものは限られ、拘束されたような放置状態にあり、今後様々な問題を抱えます。いま、農業は団塊の世代である公務員や、準公務員的な就業者等の兼業により幾分か農業の維持継続がなされてきた。よって、田舎では、その半官半農の一部の人達が農業者の減少・高齢化等の歯止め役ともなっていて、辛うじて農村地域が残っている感があります。都市区域も含めた農地法の大改革等の見直しが必要です。</p>	<p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
235	<p>今日では、農業も社会資源である。荒廃する農業用地も法規制で放置状態にある。また、諸般の事情により農業への低い関心と食の安全・安心への関心が必要となり、生命の安全・安心と生計維持と自然災害等の防止上から農業対策が不可欠です。</p>	<p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
236	<p>テレビのニュース等で豊作過ぎる野菜、果物等が無惨にも農機で踏み砕かれたり捨てられているのをよく見かける。出来すぎで安価であるから採算が合わずと云っているが廃棄前に加工や需要がないものか。余分な物は捨てればよいと云う「もったいない」精神に反することが農業から見えてくる。作った物すべて商品化されれば農業に希望の持てる農業従事者が増えるようにも思われる。私達消費者は安全な物を求める。</p>	<p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
237	<p>「農業人材」の育成を行政主導で行うことについては、賛否両論があろうかと思われるが、少なくとも県民の皆様が関心を持つ良い機会である。新規参入であれ、親族間の継承であれ、職業として捉えた時に、経済的なメリットがあり、又、使命感の持てる仕事でなければ、生涯取り組むに足らずと敬遠される。農業の国内総生産に占める比率が1%、就業者が4.1%という現状を鑑みれば、今、手を打たねば、の感は、小売業の私でさえ危機感と同時に感じる。唯、行政が声高に農業を保護することは、戦後の食糧管理法で守られた農業、その後の対外的な政府の方針から施行に至った新食糧法という名の下での農業政策による農家への強い風当たり等、行政の思いのままに、右へ左へと追われる不安が拭えない。今回の県民を挙げての取り組みは、就農を考えている方にとっては、きっと心強いものと思われる。</p>	<p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>

238 ～ 239	<p>親戚が農業をやっているがそれだけでは食べていけないので他にも仕事をしている。農業だけで食べていけるような安定した収入がない限り農業が衰退するのも無理はない。</p> <p>(同様の意見他 1 件)</p>	<p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
240	<p>農業を始めた数年は生活費などを保障する制度があれば良い。ただし、国ではなくその地域で制度をつくる必要があり、そのためには住民の意識の改革が必要。</p>	<p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>
241	<p>農業が、流通・販売業との農産物価格を決めるためには、再生産できる価格が必要。</p>	<p>・頂きましたご意見については、今後の施策の参考にさせて頂きたいと考えています。</p>